

自己点検・自己評価項目

IXAS 日本語スクール

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

1. 教育理念・目的等	評価
1 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2 1-2 学校の特色は何か	4
3 1-3 学校の将来構想を抱いているか	5
4 1-4 理念に基づく教育が行われているか	3

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

本校は、『めくるめく世界情勢の中で、生き抜ける新時代の高度人材育成』を目標としてかかげている。多様な価値観を認め、深い思考力を育て、国際感覚の伴った人材を育成するため、日々のきめ細やかな生活指導を基本に、国際社会そのものである環境づくりを心掛けている。

5年後、10年後の本校のあるべき姿を想像しながら、そのための最善の方法を模索し、目先にとらわれない学校運営をしていく。

そのために、まずは教職員の意識の共有が不可欠であり、そこに時間をかける必要を感じている。

2. 学校運営	評価
5 2-1 運営方針は定められているか	5
6 2-2 事業計画は定められているか	5
7 2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	4
8 2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	5
9 2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
10 2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	3
11 2-7 危機管理体制は整備されているか	4
12 2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

学校の年間計画は、年明けには案を作成し、職員会議にかけ、承認を得たうえで進めている。小規模校の強みである小回りがきくという利点を生かし、密に連絡し合いながら、各々のあたえられた役目を果たしている。

情報システムにおいては、まだまだこれからだと感じるが、各自問題意識をもって業務にあたり、日々効率化を目指している。

危機管理体制の整備については、防災訓練を行い、避難場所を確認したり、警察署を招いて講話をいただくなど、地域との連携を含めて年間計画に組み込み、確実にやっている。来る東海地震に備え、災害時の備品の確保も早急に行うべき案件としてとらえている。

3.教職員

評価

13	3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	4
14	3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	3
15	3-3 教職員評価を行っているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

授業見学を惜しみなく行い、その後、必ず意見交換をすることで自身の授業に対する気付きを与え、教育の質の向上をはかっている。

定期的に、職員全員が顔を合わせ、情報の共有をしている。非常勤講師に対しては、日報を活用し授業の引継ぎを徹底するのはもちろんのこと、特記すべきことは連絡ノートに書き留め、共有漏れを防いでいる。

次年度以降、授業見学を研究会という形にして、教職員の学びの機会を学内に作り、教員育成の体制づくりをしていきたいと考えている。

4. 教育活動

評価

16	4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	5
17	4-2 授業評価の実施・評価体制はあるか	5
18	4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	3
19	4-4 成績評価は適切に行われているか	5
20	4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

カリキュラムは、基本的には入学時期によって2コースに分けられているが、学生のレベルに応じて、他のクラスに編入することを認めている。現状は、4月期生と、10月期生の2クラスが稼働しているが、次年度より、レベル別にクラス編成をし、進学への体制を整える。

学生たちに年度末に、学校満足度に関する調査を行い、結果を共有することで、教職員の意見にとどまらず、学校全体の評価とし客観性を持たせている。

日本語教育業界全体の問題として、教員不足は否めない。採用の条件としては、有資格者であることは譲れないが、経験の浅い方も採用し、ともに学び、成長し合える環境を提供していく。

成績評価については、定期的にテストを行い、そこに平常点を加味し、期末のテストの結果と合わせ、総合的に判断する。5段階評価とし、偏った評価とならないように、各講師によって出させた評価を講師会にかけ、妥当性を協議する。

各種日本語試験に対しては、授業計画に試験対策授業を組み込み、年に2回模擬試験も行っている。今後、授業外で行う特別講座を設けたい。

5. 学生支援

評価

21	5-1 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
22	5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	3
23	5-3 学生の心身の健康管理・自己・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	4
24	5-4 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4
25	5-5 保護者と適切に連携しているか	4
26	5-6 卒業生への支援体制はあるか	

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

早い段階から進学の意識を持たせるため、1年目より学内で進学説明会を行った。また、後期より、月に1度、理事長の担当コマを設け、進学ガイダンスを行っている。自分が何をしたいのか、そのために今何をすべきなのか順を追って考える機会を与えている。卒業後のことも考え、何事もできるだけ自分で対応する力を育てたいが、そうはいつでも、なかなか難しい学生も多いので、個別に相談にのっている。

新生を対象に、健康診断を受けさせ、健康管理を行っている。不調を訴える学生にはお見舞いに行って様子を伺い、場合によっては病院につきそう。

安心して日本語の勉強に打ち込めるよう、寮を完備している。今年度は、初年度ということもあり、エージェントとのやり取りの行き違いで多少のトラブルはあったものの、次年度以降は、学生にとってよりよい生活環境を整えるため努力する。

6. 在籍管理と生活指導

評価

27	6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4
28	6-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
29	6-3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	5
30	6-4 常に最新の学生情報を把握しているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

入学時にオリエンテーションを行い、在留関係、生活マナー、法令順守、出席率の大切さなどの話をしている。授業の際も、たびたび取り上げ、自己管理ができるよう心がけている。

長期休暇の前には、アルバイト、非常時の対応、自転車の交通ルールなどの指導を行っている。

特に、生活マナーは外部から指摘を受けることが多く、個別に丁寧に指導をしている。

学期ごとの面談の際には、連絡先の変更の有無、アルバイト先の把握など、個人情報を確認し、何か問題があった際には、すぐに職員が駆けつけ、対応できる体制を整えている。

7. 学生の募集と受け入れ 評価

31	7-1 学生の受入方針は定められているか	5
32	7-2 学生募集活動は、適正に行われているか	5
33	7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
34	7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
35	7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

学生募集は、年2回実施していて、4月・10月の募集となっている。学生の国籍・地域は、中国、ネパール、スリランカであり、その他、ベトナム、ナイジェリア、インド、韓国も検討中である。

入学選考基準及び方法を明確化し、適切な体制で入学選考を行っている。入学許可選考は、150時間以上の日本語学習経験があること、12年間以上の教育を受けていること、さらに留学目的がはっきりしており留学期間の経済状況として経費支弁者の協力が得られること等を主な基準としている。学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行っている。不法残留者を多く発生させている国からの志願者については、学生課職員が現地面接や web 環境(skype)を用いた面接により行うなどの調査を行うよう努めている。その後も現地と密に連絡・訪問を繰り返し、入国、入学できるまでサポートしている。特に、中国には現地事務所を置き、より綿密に入学希望者、保護者とコミュニケーションができるようにしている。

入学志願者の学習能力、勉強意欲、日本語能力等を確認するとともに、受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認している。

入学時のオリエンテーションは、入学式の当日実施しており、学校情報の説明は、通訳を介して説明を行っている。中国語、英語での冊子を活用しており、今後、関係母国語の冊子も作成予定である。

8. 財務 評価

36	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
37	8-2 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	5
38	8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	5
39	8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	3

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

開校から一年が経ち、学生数も学期ごとに順調に増えており、将来に向けて更に大きく展開する見込みである。

学生の募集も十分にできているので、収容人数の増員を行うため 2018年 11 月に適正校の認可を受ける予定である。

それと同時に 2019 年には分校の建設も目標に今後の予算立案が必要であり、大きな設備投資を控えているため、その点については更なる詳細の試算が必要となる。

今後 5 年後・10 年後を見据えた経営をするため、今投じる必要経費を十分に回収できる学校運営をしなければいけないと考える。

会計については、会計事務所に会計監査を委託しており、適正な収支管理と責任体制が明確になっている。今後は、予算と実績との差異等、照合を進めていきたい。

9. 法令などの遵守

評価

40	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
41	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
42	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
43	9-4 自己点検・自己評価を公開しているか	5
44	9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

入出国管理及び難民認定法はじめ各種法令を順守することは、学生の受け入れ及び日常の指導において不可欠なことであり、学生課を中心に教務課において常に留意している。学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおける説明(通訳)やクラス内でも適宜指導を行っている。法律の変更等については、逐次教職員で行う朝礼の場において非常勤講師にも徹底している。個人情報保護に関しては「特定個人情報等取扱規程」を定め文書化し、個人情報が含まれる情報源であるシステム上のデータ及び紙による書類については、規定に基づき適切に管理されている。学生に対しては、入学時及び長期休みの前に法令遵守の指導を実施している。

10. 社会貢献

評価

45	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3
46	10-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	1

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

今学期は開校1年目ということで、学校の周辺環境への理解がまだ不十分で、社会貢献できる余裕がなかった。まずは、区役所へ出向いたりし、情報を集める必要がある。地域に愛される日本語学校を目指し、地域との協力体制を構築した上で、今後、本校の地域社会への貢献の在り方を模索していく。

〈総括〉

開校1年目がすぎようとしている。予期せぬことが次々と起こる怒濤の1年であった。自己点検・自己評価をするには、まだ不十分で、恥ずかしい箇所もある。当面は対処法に追われる日々だが、少しずつ改善できるように確実に進めていく。時間はかかるが、よりよい体制づくりができるよう、善処する。課題をクリアしていく中で、ここで働く教職員、そこに通う学生たち、学生たちのご家族、地域の方々と、よりよい信頼関係を築き、本校に係わる全ての方々を巻き込み、満足度NO.1の学校を目指す。